

貝リングル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R5-19号

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

【概況（9月12日 0時～9月13日 0時）】

- ・ヘテロカプサに対する反応が、0m、2m及び5m層で『弱』、B-1m層で『中』が確認されました。（0、2、5mでは9/6～12に一時的に『中』が見られることがありました）
- ・ヘテロカプサは、9月11日の立神浦赤崎における採水サンプル1mLあたり、0mで37細胞、2mで33細胞、5mで3細胞、B-1mで32細胞が確認されました。

【おしらせ】次号は、9月20日（水）の予定です。

【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応※	備考
0 m	弱	9/6(6-15時), 7(6-13時), 8(6-8時, 9-11時), 9(5-7時), 10(7-14時), 11(7-12時), 12(6-15時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2 m	弱	9/6(7-17時), 7(7-12時), 8(4-8時, 9-12時, 13-14時), 9(5-14時), 10(7-14時), 11(6-13時), 12(7-8時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5 m	弱	9/6(5-7時, 16-19時), 7(5-6時, 17-19時), 8(3-6時), 9(5-7時), 10(5-8時), 11(4-6時, 14-16時), 12(5-6時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。
B-1 m	中	9/6(3-7時), 7(4-7時, 17-20時), 8(2-7時, 17-19時, 21-24時), 9(4-12時, 21-23時), 10(4-8時), 11(3-8時, 15-17時), 12(4-9時, 15-19時)にヘテロカプサに対する反応がみられました。

※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。
⇒ 極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。

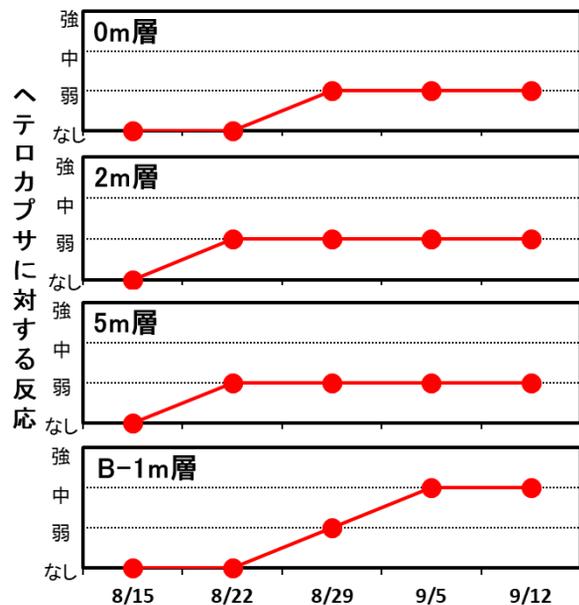
中：連続的なスパイク波形がみられる。
⇒ 強いストレスがあり、長く続くと衰弱・へい死の危険がある。

弱：スパイク波形の集中が時折みられる。

⇒ 貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

なし：応答なし ⇒ 影響なし。

【直近の状況（5回分）】



●本紙について

- ・英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リングル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- ・毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

●貝リングルについて

- ・二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- ・英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

●センサーの設置場所と水深

- ・湾奥部（立神浦赤崎）の0・2・5・B-1m層に設置しています。
- ・B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

●利用上の注意点

- ・海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- ・本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

